

細江カトリック教会だより

8・9月号

〒750-0016 下関市細江町 1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura.ne.jp>

イグナチオの年にあたって

新型コロナ感染症への対応に明け暮れた1年半が過ぎ、ようやく収束の兆しがあちこち感じられるようになりました。地域によっては、まだ、公開ミサができないところもありますが、幸い、山口県内の教会では、9月19日からミサを再開しています。コロナ禍で、ミサがない日々が続いたり、ミサがあっても、全員が一堂に会することができなかつたり、集会やイベント、さらには、遠出ができなかつたりと、どこか、閉塞感が漂っていたことも事実です。

そんな中で、今まで予想もしなかったことも始まっています。オンラインでの会議や集い、遠く離れた地域の教会のミサにYouTubeで参加したり、はては黙想の指導や面接もオンラインで行われるようになりました。昨年7月から始まったディン神父様の毎日のみ言葉のわかちあい『いのるはな』も大きな恵みです。

今年、広島教区では、ヨセフの年に因んで、聖ヨセフの執り成しをねがいながら、11月に開催される第三回代表者会議に向けての準備が進んでいます。広島教区創立100周年が2年後(2023年)に迫っていますが、当時、大阪教区から独立した広島教区の司牧が、最来日(1908年)間もないイエズス会に託されたことをご存じでしょうか。戦後、全世界から日本に宣教師が派遣され、山口島根地区でも多くのイエズス会司祭が教会司牧にあっていたことはご承知と思います。司祭の高齢化や召出しの減少で、イエズス会員が担当

する教会もごくわずかになりましたが、そのイエズス会にとって今年、2021年は特別な年にあっています。会の創立者聖イグナチオ・ロヨラの回心500年を記念する「イグナチオの年」として、世界的に、イグナチオの生涯をふりかえり、後の教会に深い影響を与えた「霊操」に親しむ様々な企画が行われています。

7月には、広島から住田神父がお出でになり、イグナチオについて、また、彼が自らの経験をもとに、祈りの手引きとして編んだ「霊操」の目指すものについて講話をしてくださいました。



また、5月から10月までの間、山口の百瀬神父様のご指導のもと、有志の方々が、実際に、「霊操」を行っていただけます。毎日、一定の時間を祈りに捧げる意志と余裕のある方は限られていますが、参加しておられる方は、それぞれ深い実りを体験しておられます。イグナチオについて、また、霊操について、ゆっくり述べることはできませんが、最後に、イグナチオが大事にし、今年、全世界のイエズス会員が繰り返し口にし、心に刻む言葉を記し、皆様にも味わっていただくようお勧めします。「すべてのものをキリストにおいて新しく見る」。日々の生活と祈りを通して、キリストにもう一歩近づき、自分を含め、すべてを新しい目で見直す恵みがわたしたち皆の上にありますよう祈ります。

作道 宗三 神父

ロヨラ城での療養生活(1521年-1522年)

Albert Chevallier-Taylor 作 © 2011 Jesuit Institute

聖イグナチオの「靈操」研修会

7月3日(土) 14:00

ご指導は住田省吾神父様。

26年前細江教会で司牧され、家庭訪問をされるなど、とても印象に残る懐かしい神父様です。

フランシスコ・ザビエルら同志6人とともにモンマルトルの丘で誓いを立て、イエズス会を創設したロヨラのイグナチオの回心のきっかけは、パンプローナの戦いでした。それから今年500年の記念の年。5月20日から来年7月31日(イグナチオが65歳で、ローマで帰天した日)までを「聖イグナチオ年」としています。カトリック教会の典礼では毎年7月31日を聖イグナチオの記念日としてミサでお祝いし、感謝して祈りを捧げています。

イグナチオ著「靈操」は、スペイン出身イエズス会士の広島教区ホセ・ミゲル・バラ神父が日本人に解りやすく邦訳された書物名ですが、読むためだけでなく、**靈的体験、神との交わり**を徹底させる手引き書です。自分の人生の明確な真の意味を見つけるため、「**主とのかかわりから、主との出会いから**」を見つけることを条件に、自分自身に問うのです。イグナチオは、回心後、マレンサの洞窟で、苦行と祈りの生活、深い**靈的体験**を繰り返した時期に、「靈操」の主要部分を書き留めていました。そのノートは現存していませんが、その体験こそが「靈操」の起源であることは疑う余地がありません。人として生まれ死を避けられない私たちが、必ず直面する問い、すなわち

① 私はどこからきて どこへ行くのか。

② 私は何のために生まれたのか。

この問いへの自分自身の解答を得るために、イグナチオの回心の追体験へと誰もが招かれていることに気づかされます。お話の初めに「イグナチオは戦争で負傷した**信徒**でした」と強調され、「ロヨラのイグナチオ**自叙伝**」が今年6月に初版発行されたと紹介されました。その自叙伝を今読み終え、イグナチオが初めて聖人伝を読んだときの心の動きを想像しています。

ザビエルだけでなく、イグナチオも来日していたら、日本の教会はどうなっただろうかと想像して楽しんでおります。またお会いできる日まで息災を願うばかりです。

住田神父様 有難うございました。

菊野 清一



*「靈操」研修会に参加された彦島教会の信徒の方からも原稿をいただきました。

下関協働体の集い『信徒の靈性、今、ここに』と題して、住田神父さまを講師に迎えて、セミナーがありました。「イグナチオ年」を記念して、ディン神父さまの発議により協働体主催のもとに行われ、参加者は約40名でした。

イグナチオの回心(体験、気付き)を通して、キリスト者として、イエスに従う信仰、主との交わりの中で自分の生きる意義を見出す。そして、私はどこから来たのか、どこへ行くのか。私は何のために生れたのか、どの様に生きて行くのか。

そんな、生死の壮大荘厳なテーマについて、「靈操」から読み解く内容でした。イエスから招きを受けた人生にどう応える、自分自身を中心とする中から出て来なさい。イグナチオ・ロヨラのキャリア(履歴)を追い、その「回心」の始まりが、「聖人伝」「キリスト伝」の読書にあること、そして自身の心の動き(世界)に気付き、ある身分の高い人に、どうしたら自分も近づけるだろうか、想いに耽ったということ。聖人・偉人たちがやっている苦行をやってみよう。主イエス・キリストに次第に深い関心を示すようになる。

彼の「自叙伝」に述べられている事柄にも触れる。それは、エルサレムに行こう(巡礼)

と決心し、そのためバルセロナへ行き、そこで先の旅が困難になる戦況悪化。

霊操体験を信徒として、神の前に自分の想いを巡らすことで、神との関係、主の慈しみと憐れみのもとで、自分の罪を気づき、担う。ペトロの三度の主を否む箇所（ルカ福音書）、人間の罪（ペトロの裏切り）。

2013年、パパ様になる前の教皇が、自らを罪人と答えたという事を心に深く刻み、実り多い、満たされたセミナーを終えました。

彦島教会 星山 和彦



洗礼のお恵みがシャワーのように・・・7/18

コロナ禍の中、人数制限のミサの中で喜びの光が輝きました。

今日、洗礼を受けたのは（ケン、エリザベツ夫妻）の二人目の男の子
ミカエル ディビット タンボルニーノちゃん
おめでとうございます。

神さまのお守りと恵みを受けて健やかに・・・。

お祈りしています。



* 両端は弟さんご家族、神父様の右隣の代母さんと。

すべてのいのちを守るための月間

9月1日～10月4日

「神の住まい、地球共同体を一新しよう」
信仰によってわたしたちは、神の霊が絶えず地の面を新しくしている、と信頼しています。そう希望しながら、洗礼を受けたわたしたちは、神の園を耕し守るという人間の証明を再確認しなければなりません。神は、わたしたちがキリストと結ばれて、人の住んでいる地球全体を新しくし、すべての造られたもののために場所を確保することに参加し、すべての造られたもの間の正しい関係を作り直そう招いています。・・・

日本カトリック司教協議会

会長 高見三明大司教のメッセージより抜粋

*ほんの一部の紹介です。全文は聖堂入口のプリントをお持ち帰りください。



今年も世界各地、日本でも多くの豪雨災害等が起きています。気候変動は徐々に深刻さを増しています。私たちが少しでも変動を減らすために具体的な取り組みをしたいと思います。

- ①水・電気・食料の資源の浪費はしていないか
 - ②洗剤やプラスチック製品などの環境汚染物質の使用削減
 - ③海、山、街の身近な場所での清掃活動（メッセージでの具体的行動の提案から）
- *少しでも、できることをやってみましょう。

信徒代表 近藤

トアン新司祭誕生 9/4（土）

聖イグナチオ教会 聖堂



盛大なベトナム音楽？で始まった、グエン・ヴァン・トアン助祭の司祭叙階式が、菊地功大司教さまの主司式で執り行われました。

もちろん、コロナ禍につき数名の関係者限定になりましたが、50名近くの司祭の皆さまとイエズス会神学生の見守る中を静かで盛大な式になりました。

司教さまから「あなたは絶えず祈りなさいと言われた主のご命令に従い、自分に委ねられた民のために、神のあわれみを祈りますか。・・・あなたは教会共同体の助けのもとに貧しい人、苦しむ人、助けを必要とするすべての人に主の名の慈しみを示しますか」・・・トアンさんが「はい、果たします」と、司祭職の表明と従順の約束に力強く応えられました。

トアンさんがこれから人生を捧げる司祭職を神と共に担う重みを思い、自分の子どものことのように胸が熱くなりました。

聖堂の2階にある聖歌隊は指揮をとるシスターに合わせて、優しく美しい歌声とベトナム語の楽曲とドラの音が響きます。

私たちは見上げて立ちつくしていました。

教会の鐘の鳴り響くなか、感動と祝福の幕が静かにおりていきました。

トアン新司祭 おめでとうございます。

近藤



* 神学院(新旧)の仲間と記念撮影。

* 式の最後に皆さまへ挨拶をするトアン新司祭。



地区だより III

新地筋川地区

平素は、夫婦二人で静かな自粛生活を送っています。たまに、二人の孫娘が顔を出してくれることが私たちの癒しになっています。

5歳の孫が「ばあばの所に泊まりたい！」と

言って3歳の妹と二人が泊まることになり、どうなることかと少し心配でした。

私たちは孫とゲームやトランプで遊んでいました。一段落した頃、いつものように夫婦でお祈りしていると、二人の孫娘はキョトンとして、「何しているの？」と聞いてきました。「みんなが元気でいられるよう、お祈りしているんよ」って、話すと「そうなん」と不思議そうに見ていました。それから「額と胸と左肩、右肩に指をさしてこうやって手を合わせてお祈りするんよ」って、孫娘の手を取りながら一緒にお祈りをしました。

そろそろ寝かそうかなと思って、5歳の孫の顔を覗いてみると、ポロポロと涙をこぼしながら「ママがいい！！ママがいい！！」と言って大泣きしてしまいました。3歳の孫は気にせず遊んでいましたが、お姉ちゃんに影響されてか一緒に泣いてしまいました。

結局、息子夫婦に迎えに来てもらい、二人は嬉しそうに帰って行きました。

散々な一夜でしたが、孫娘たちが将来、今日のお祈りのことを思い出して、少しでも教会に興味を示してくれることを願っています。

K. K



編集後記

・アフガニスタンの情勢で最も弱い人々が苦しんでいます。心を寄せていきたい。

・微力ではありますが、教会は何年もペシャワールの支援を続けています。亡くなる前の中村哲氏にもお会いしてお話を伺いました。後を引き継ぐ方々に、これからも細やかながらも協力できたらと思います。

センターにペシャワール関係の本も置いてありますので、ごらんになってください。

・コロナ禍で、生活が困窮している外国人留学生や就労者への物資等の支援と、労働教育センターでは子ども食堂や宅配 Car の導入を取り入れています。相談受付中・・・

細江教会のディン神父、総務、労働教育センター中井神父までご連絡ください。

広報委員会一同